

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所としての運営理念を掲げ取り組んでいるが、具体的な内容までは作り上げていない。</p>	○	<p>運営理念をもっと具体的、明確にして、さらに実践しやすいよう見直していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>学習会やミーティングの場を通じて、職員同士で理念の共有、実践に向け取り組んでいる。</p>	○	<p>運営理念を具体化・明確化して実践に生かしていきたい。また、管理者・職員は理念の意味をよく理解し、日々の生活に反映させていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族様には理念を理解していただけるようにホールに掲示している。地域の方への理解していただけるような体制はできていない。</p>	○	<p>運営推進会議や地域の方と交流の場を利用し、理念を理解していただけるような活動をしていきたい。また、1階の玄関ホールに掲示する等、近隣の方の目に触れるような工夫をしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>近隣の方へは職員の方から積極的な挨拶や会話を心がけ、日常的なつきあいができるように努めている。町会からは、盆踊りへの招待がきたり、近隣の保育園の運動会へ参加したり、徐々にではあるが地域に溶け込んできているように思う。現在、地域の認知症普及活動やキャラバンメイトの活動はしていない。</p>	○	<p>外部からの見学者を受け入れしているが、ホーム内の掲示物等があるため、プライバシーや個人情報の保護に関して検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し改善できそうなものや、最優先しなければいけない項目から、改善するよう努めている。すべての職員が外部評価・自己評価の意義を理解していない。外部評価の実施はまだである。	○	外部研修や内部研修により、全職員が外部評価・自己評価の意義を理解できるように取り組んでいきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際には、事業所としての取り組みや、概要などを説明している。また、会議のメンバーからも活発な意見を頂いている。その後、調整がつかず会議を開催していないので、そこでの意見をサービス向上に生かすまでには至っていない。	○	事前に議題を決め、運営推進会議を定期的で開催できるように連絡調整を密にしていきたい。また、会議での内容を反映できるように取り組んでいきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価・自己評価のほかにも、市役所の担当職員の方へ報告したり、助言をいただいている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと話し合い、助言をいただき取り組んでいる。職員は成年後見制度についての知識は薄い。	○	職員が成年後見制度を理解できるように研修や学習会の機会を設けていきたい。また、必要な方には活用できるように取り組んでいきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、日常的に管理者からの指導や学習する場を設け、虐待を防ぐように取り組んでいる。虐待を防ぐように取り組んでいる。虐待防止関連法について知識が乏しい職員もいる。	○	全職員が虐待防止法を理解し、虐待の未然防止に取り組んでいきたい。また、外部研修へ多くの職員が参加できるような体制作りに努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望がある際には、事前に見学する等、納得していただいている。契約時には書面と口頭でわかりやすく説明し、不明な点等ないか必ず確認している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見・要望はその都度聞き入れ運営に反映できるように努めている。また、苦情相談窓口は行政をはじめ、他の機関でも受け付ける旨の話をしている。	○ 意志疎通が困難な方に対しても、行動や状況等から不満や要望を察知できるように配慮していきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話にて報告している。また、月1回おたよりの発行と合わせて利用者個人の様子を文章にて報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、投書で苦情・要望に関する受付を行っている。事業所内で処理できる内容については直接、職員や管理者が対応している。また、利用者様やご家族様には、行政機関にも苦情窓口がある旨を伝えている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞き入れ、運営に反映する努力をしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等で通常の人員配置で対応できない時は、予め必要な日に勤務者を確保できるような体制をとっている。また、状況に応じてその都度、勤務調整を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様の混乱や事故を避けるために離職がある際には、慎重に説明している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力に応じた研修を見極め、できるだけ参加できるように心がけている。また、研修受講後は全職員が周知できるように、学習会やミーティングの場を通じ報告している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のサービス事業所が見学に来ることがあるが、相互訪問や合同での勉強会等の体制はできていない。	○	管理者や職員が地域の同業者と交流したり、相互関係を築いていけるような働きかけをしてきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	その都度管理者が職員の悩み事等聞き入れ、ストレスの軽減は考えている。職員の休憩時間や休憩スペースが十分確保されていない。	○	職員が現場で感じているストレスや悩み等、軽減できるように面談や話し合いの機会を設け具体的な策を考えていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修等に参加する機会を増やしていけるように心がけている。また、テーマを決め職員のスキルアップにつながるよう毎月1回は学習会を行っている。運営者は現場の状況や勤務状況を把握するように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に関しては、利用状況を問わず随時受け付けている。利用に至る際は、利用者様・ご家族様の希望・要望を受け止め、できる限り希望・要望に沿うように努力している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や利用者様の意見や要望、困っていること等、情報を得ながら、総合的にどのようなサービスが必要であるか話し合いを行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様の状態を考慮しながら、他の利用者様と自然になじんでいけるように支援している。また、利用者様・ご家族様や関係する方からの情報や意向を聞きながら十分に話し合い、利用者様がサービス開始時に混乱しないように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者様から学んだり、共に楽しんだりすることを心がけ、共感的・受容的な態度で臨んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にてご家族様の意向を聞いたり、利用者様の希望や要望を伝え、ご家族様と利用者様の相互関係を築いていけるように支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様とご家族様の意向を把握し、絆を崩さないように支援している。また、疎遠になっているご家族様には必要に応じ手連絡をし、関係が崩れないように取り組んでいる。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙の代筆を行ったり、家族以外の方の面会も自由である。また、外出や外泊の際の連絡・調整を行っている。利用者様が今まで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	極端に孤立したり、他の利用者様のご迷惑にならないように配慮している。また、利用者様同士が馴染みの関係を築いていただけるように支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された場合でも、相談を受け付ける旨を話している。また、必要に応じて相談を受けることもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様からの情報、意見を参考にしながら、利用者様一人ひとりの個性を生かせるように努めている。	○ 意思疎通が困難な方に対しても、生活歴や価値観等、いろいろな角度から見つめ、本人本位の生活ができるように支援していきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様等から情報収集し、その人らしさを見出せるように努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の利用者様の生活リズムや「できること・できないこと」を把握し対応している。	
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の希望・要望を受け入れ介護計画を作成している。また、介護計画作成時には、職員の意見や要望も情報も参考にしている。	○ 意思疎通が困難な方に対しても情報や生活歴等、いろいろな角度から見つめ利用者本位の介護計画を作成し、日常のケアに反映させていきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護度が変更になったり状態が変化したとき等は、その都度対応している。また、利用者様、ご家族様の要望や意見を取り入れ対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に記載し、重要な内容は職員が共有できる仕組みとなっている。		
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの立地条件等生かし、買物援助を行ったり、社会交流ができるように援助している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町会長や民生委員等、地域からの理解を頂いている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターとの話し合いは行っているが、他のケアマネジャーやサービス事業者との話し合いは行っているが、他のケアマネジャーやサービス事業者との話し合いは特に行っていない。入居前に担当されていた担当ケアマネジャーとの情報は共有している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難ケース等、事業所内で解決できない問題は地域包括支援センターに相談を依頼したり現在も協働している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診結果をご家族様に報告している。また、利用者様のご家族様の希望する医療機関を受診できるように支援している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月2回の往診や、必要に応じて医師からの指示を受けている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎月2回の往診により健康管理を行っている。看護職員の配置はないが、かかりつけ医の看護師と連携し、緊急時は24時間相談できる体制となっている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様が入院された場合は、病院関係者と情報交換し退院後の受け入れについての話し合いをしている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護職員の配置がない点や設備や備品の問題もあり、重度化や終末期に対応していない。日常的な健康管理や急変時の対応については、かかりつけ医と話し合いご家族様にも説明している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との情報交換はできているが、事業所としての対応が困難なため、重度化や終末期には対応していない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームを退去された方には、家族や他の施設の方nホームでの生活してきた様子や、医療情報等の提供をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーの尊重を心がけているが、トイレ誘導時等、声かけが他の利用者様に聞こえてしまいプライバシーを損ねてしまう場面もある。利用者様の言動や行動に対しては否定しないように心がけて対応している。記録に関しても、プライバシーに配慮して記載している。	○	特に介助を必要とする方に対しては、声かけや介助する際にプライバシー保護に細心の注意を払って対応していきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の自己決定を尊重している。また、家族からも利用者様の希望や要望を聞く機会を設けている。	○	意思疎通や訴えが十分できない利用者様に対しては、表情・しぐさ・情報等から希望や要望を察知し、できるだけ希望が叶えられるように取り組んでいきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が生活リズムを保って過ごしていただけるように、一日の日課を設けているが、個人のペースを尊重している。場合により、業務が優先となることもある。	○	業務を優先することなく、職員も利用者様と一緒に寄り添ったケアをしていくためにはどのようにしたら良いか話し合い、業務改善をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院に関しては、希望に応じて月1度の訪問理容や近くの美容院を利用できるように支援している。衣類等は利用者様の好みのものを着用していただいている。馴染んでいる服装で過ごしていただけるように心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、利用者様個人の希望にできるだけ沿うよう配慮している。(パン食の方等) また、利用者様と職員と一緒に食事を摂り、片付けも利用者様と一緒にしている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては、利用者様個人で楽しめるように支援している。また、D r . の指示により適正量等、考慮し提供している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつを使用している方、誘導や介助を必要とする方に対してはプライバシーの配慮に努めている。排泄チェック表等利用し、利用者様個人の排泄リズムを把握している。	○	おむつを使用している方でも、可能な限りトイレで自力排泄していただけるように支援していきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日を月・水・金としているが、結果的に利用者様の生活リズムになっている。その都度、入浴希望日、入浴時間帯等の確認は行っていない。	○	利用者様個人の要望や希望があれば、現状での入浴体制を見直していきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の疲労感や様子を把握し、自由に心身を休めるように支援している。一人ひとりの睡眠パターンも把握している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様個人の、できることできないことを把握し、個別に役割を持っていただいている。園芸・洗濯ものたたみ・ごみ出し等、各利用者様が自分の役割であると認識して行っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人の希望や、お好みの物等、自由に購入できるように支援している。購入したのに関しては事業所で、一時立替し、ご家族様に請求している。金銭を所持している方への金銭管理の援助をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特別な場合を除き、その日その時の気分や雰囲気大切に、外出できるように援助している。業務内容が優先となりできないこともある。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事とは別に利用者様個人の希望をできるだけかなえ個別の外出等を行っている。	○	意思疎通が困難な方に対しても、それまでの生活歴や情報をもとに、希望がかなえられるように支援していきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等から電話があった場合は、利用者様と直接、会話ができるように呼び掛けている。利用者様から依頼があった場合は、その都度対応している。また手紙のやりとりも円滑にできるように援助している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はなく、基本的に自由である。特にご家族様に関しては気軽に訪問していただけるように依頼している。面会時、訪問時に過ごしていただくための、プライベートスペースがないので、主に居室で過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や行動の制限は行わない旨、職員が理解できるよう指導しているが、拘束に関する内容の細部までは理解できていない職員もいる。日常的に身体拘束は行わない姿勢でケアを行っている。	○	禁止の対象となる具体的な行為を職員一人ひとりが理解し、身体拘束や行動の制限を行わないケアができるよう取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>物品の使用に関しては、抑圧することなく利用者様一人ひとりの状態に応じ、見守りや介助にて使用していただけるよう援助していきたい。注意が必要な物品に関しては、必要に応じてマニュアルを作成し、保管・管理に努めていきたい。</p>
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>考えられそうな状況をいろいろな角度から見つめ直し、事故等を最小限に抑えられるような対応を心がけていきたい。</p>
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>実際の対応については、職員個々の経験や技術に違いがあると思われるため、実践に近い状態での訓練を行う機会を増やし、急変時や事故発生時に困惑しないような体制を築いていきたい。また、全職員が救急救命の受講を受ける機会を設けていきたい。</p>
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>運営推進会議等、地域の方々との話し合いの場で、こちらからの情報を発信したり、協力を得られるような体制を築いていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時には必ず説明をし、利用者様・ご家族様からの理解を得ている。また、利用者様の状態が変化した場合等も、起こり得る可能性があるリスクについては説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや一般状態の観察に注意しをし、異変や変化にすばやく気付くように配慮している。	○	利用者様の異変や変化をすばやく察知し、適切な対応をすばやくできるような体制作りを確立していきたい。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの服薬内容は、全職員が把握できるように個人ファイルに添付している。服薬が変更になった際には、その都度、申し送りを徹底し全職員が把握できるように努めている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな利用者様に対して、便秘予防につながる飲食物の提供をしている。トイレ誘導時は腹部マッサージを行い、自力排便ができるように心がけている。便秘の及ぼす影響の理解力が職員個人により差がある。	○	学習会や内部研修を行い、便秘の原因や及ぼす影響を全職員が理解できるように取り組んでいきたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄、うがいを励行し、できる方は自分で行っている。できない方も食後のお茶や水分摂取により、口腔内を清潔に保っていただけるように支援している。	○	自分でできる利用者様に関しても、見守りや声かけにより細部まで清潔保持ができるように支援していきたい。特に介助を要する利用者様の口腔内の状態を観察し、清潔保持ができるように取り組んでいきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量に関しては、十分に摂っていただけるように配慮している。記録に残し職員が把握している。カロリー計算はしていない。また、個人の習慣によりパン食の方もいらっしゃるの、希望に沿えるように対応している。	○	引き続き水分、食事摂取量の把握をする。高齢者にとってバランスの良い食事の提供、個々の習慣やし嗜好を取り入れたり、柔軟な対応をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防に関してはマニュアルを活用し、統一された対応をしている。特に、手洗い、うがいの徹底は、利用者様にも行っていただいている。対応の取り決めの細部まではできていない。	○	各感染症に関する対応策を細かく取り決め、全職員が対応できるように取り組んでいきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用器具は昼・夕とハイター消毒している。まな板・包丁も食材によって使い分けている。冷凍食材、生の食材をつ、使い分け安全な管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	当ホームは併設施設の2階部であるが、正面玄関付近に花を植え、穏やかな雰囲気作りに気を配っている。ホームに直接出向いてくださる近隣の方等は現在のところ特別いらっしゃらない。	○	運営推進会議の場等で近隣や町会の方の意見や要望を聞き入れ、訪問しやすい雰囲気作りに取り組んでいきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や採光に関して配慮し、その都度調節しているが、一部リビングの窓からの日差しが眩しく調節ができていない。安らぎや生活感が漂うように装飾等、意識して行っている。	○	一部リビングの窓の日差しが調節できるように工夫してきたい。また、視覚・聴覚等から季節感や生活感を感じていただけるように取り組んでいきたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース的には十分とは思えないが、主にリビングで過ごしていただいたり、廊下にソファを設置したり、馴染みの仲間同士が自由に過ごしていただけるよう工夫をしている。	○	限られたスペースの中ではあるが、入居様が気の合った仲間と過ごせる空間を作っていけるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に使い馴染ん物等、持参していただけるよ うに利用者様・ご家族様に促している。特に湯の み・箸等は個人が馴染んだ物を使用していただ いている。	○	利用者様の意向を聞き入れ、ご家族様との連携を 密にしながら、居心地がよい環境を作っていきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	その都度換気を行っている。各居室、リビングに は温度計・湿度計を設置し、利用者様が快適に過 ごしていただけるように努め必要に応じて調整し ている。	○	外気温との差や利用者様個人の状況に応じた温度 調節を行い、快適な環境を保っていただけるよう取 組んでいきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建築の構造上、安全面では欠く箇所があり、十分 な安全対策はできていない。福祉用具などを用 いて安全対策には工夫をしている。	○	安全面が十分でない箇所は引き続き工夫しなが ら、取組んでいきたい。危険防止のため、補修 等はその都度行っていきたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱なく場所を理解できるように、トイレの表示 を見やすくしている。自分の居室が認識できなく なる方には居室に目印を付け工夫している。利用 者様のできること・できないことを把握し混乱し ないように努めている。	○	利用者様一人ひとりのできること・できないことを 職員全員がもっと把握して障害を持ていても自立 した生活を送れるように取組んでいきたい。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	建物の外回りには畑があり、活動の場を提供して いる。また、屋外作業等、困難な方も対応でき るようにバルコニーに花を植え、職員と一緒に水や り等の作業ができるように工夫している。廊下に ソファを置き馴染みの仲間同士が自由に過ごせる 場所を確保している。	○	建物の構造上、十分なスペース作りが難しい点も あるが、家庭的な雰囲気を意識した空間作りを 行っていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利便性に優れた環境を生かし、「その日、その時の気分」を大切に、買物援助や外出援助や外出援助に力を入れています。